

てはまるとは限りませんので、ぜひともご自分の心のフィルターで濾過され、参考にしていただければ幸いです。

○「子どもは褒めて育てるべきなのか。」という相談をよく受けるが……。

褒めて育てることは、子どもの自尊心を高める育児法と考えられ、多くの人に支持されている。数値化された自尊心の指標を用いた幾つかの研究でも、自尊心が高いと学習意欲や学力が高く、未成年の喫煙や飲酒などの反社会的な行為が少ない一方、大人になってからの勤務成績、幸福感、健康状態も良好な傾向が示された。

そこで、米国のカリフォルニア州では、大規模な研究プロジェクトを始動させた。その研究の結果、「自尊心が高まると、学力が高まる。」という定説が覆された。自尊心と学力の関係はあくまでも相関関係に過ぎず、因果関係は逆であること、すなわち、学力が高いという「原因」が、自尊心を高めるという「結果」をもたらしていることが明らかにになったのだ。

したがって、子どもをむやみやたらに褒めても、学力向上にはつながらず、むしろ学力の低い子には大きな負の効果をもたらすことが分かった。

ただし、決して子どもを褒めてはい

けないというわけではない。子どもの能力を褒めるのではなく、「あなたは、□□と△△をよく頑張ったね」と、努力した内容を褒めると成績を伸ばす傾向があるからだ。

○「子どもを勉強させるために、褒美で釣ってはいけなのか。」という質問もよく受けるが……。

テレビ番組などで、ほとんどの教育評論家が、褒美で釣るのはいけないという見解を述べている通り、親や教師に限らず、多くの方が、勉強をさせるためにお小遣いや物を与えることに抵抗があるのではないか。しかし、経済学は、この問いについて、科学的根拠に基づき答えを持っている。

人間には、遠い将来の利益や満足よりも、近い将来のそれを求める傾向があり、今、勉強するために、「目の前ににんじん作戦」は効果があるのだ。

お金も、金額や与え方を間違えなければ、そんなに悪い褒美ではない。褒美にお金を得た子は、無駄遣いするどころか、堅実なお金の使い方をしていくことが明らかになっているからだ。

ただし、テストで良い点を取れば、という褒美の与え方よりも、宿題をすれば、本を読めば、といった何をすればよいかが明確な学習に対して褒美

を与えるほうが効果的である。

○「テレビやゲームは子どもに悪影響を及ぼすのか。」についても、多くの親が悩んでいるが……。

「テレビやゲーム」と「子どもの発達や学習」の関係が、因果関係なのか、相関関係なのか、見極める必要がある。負の因果効果は思ったよりも少ないというのが経済学の見解であるが、著者の調査によると、1日2時間を超えると、子どもの発達や学習時間への負の影響が飛躍的に大きくなる。しかし、1日1時間程度ならば、むしろ息抜きになり、罪悪感を持つ必要はない。



○「子どもの学習時間を増やすために、親が、勉強の仕方が分からない子に、「勉強するように言っ。」のは効果がな

い。特に、母親が娘にそう言うのは逆効果になってしまうことがある。

子どもの学習時間は、教師や友だち、塾の先生など、多くの人と関係しているのので、このように困ったとき、親は学校や塾を含む身近な人にもっと頼ってよい。まず子どもが勉強の仕方を勉強することが重要であるからだ。

○例外中の例外である特定個人の成功体験をやみくもに信じて、子どもに同じことをさせるのは、かえってその子を成功から遠ざけてしまう。

○子どもを、他の子どもと比較するのは、リンゴとオレンジを比べるようなものである。子どもの集団を、他の子どもの集団と比較するのも同様で、比較不可能である。

「学力の経済学」には、この外にも、「勉強は本当に大切か。」「少人数学級には効果があるのか。」「いい先生とはどんな先生か。」など、経済学の立場から、数々の興味深い提言が載っています。

おそらく、著者の学説に異論を唱える立場もあると思いますが、教育とは何かを考え、教育の本質や内容を見返すうえで、極めて貴重な提言であることは間違いないと思います。